

Thinking&Talking about New High-School!

プレワークショップ「高大生もやもや会」

高大生



↑ 高校生が運営する「たしゅう室」にて開催

●参加者  
伊那北・弥生ヶ丘の高校生 8名  
+ 大学生 3名 合計 11名

2/11 (土) 【高大生プレワークショップ】  
13:00-15:00 いなまちたしゅう室

3月からの新校ワークショップ開催のプレワークショップとしての位置付けで、できる限り大人を交えない「場」で、やらされ感や誘導ではない主体的に集った高校生らによる「対話」の場を具現化してみた。ファシリテーターは高校生に年齢の近い長野県立大4年の九里が担い、場の促進・サポートとして現役の大学生2名が参加した。前日10日の積雪の影響で交通網などが乱れるなか、8名の高校生が参加した。

●目的・趣旨

主体的に参加した高校生は新校が実装していく「新しい学びのありかた」や「学びの空間」の当事者ではないものの、日々感じたり違和感を抱えていることを素直に表出したり、コミュニケーションを通じた共有体験それ自体が学びにもなる。

- NSDの考える共学共創のビジョンの共有
- ワークショップによるアイデア創出のプロセス体験
- 大学生も交えたLINEグループを作成し、高校生の生の意見を「見える化」「言語化」する場をつくる。



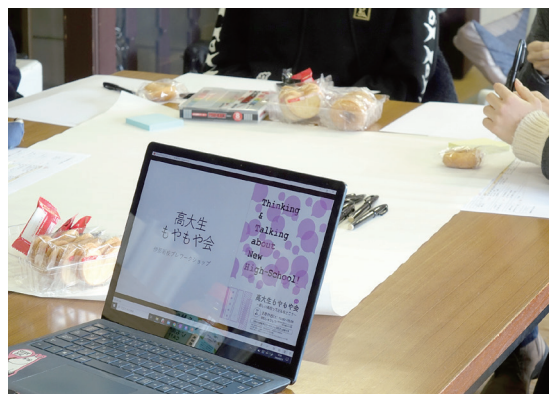
↑ 告知チラシ。両校で掲示いただいた。



●当日のフロー

1. 九里からイントロダクション
  - ・本日のプレWSの位置付けと、目的の説明
2. 県教委田中先生よりNSDプロジェクトの説明
  - ・これまでとは異なるプロセスである点
  - ・学びと空間をともに「考えていく」
3. 自己紹介・アイスブレイク（雰囲気作り）
 

時間経過に伴い参加者が増えてきたため、テーブルを2箇所に分けて、自己紹介。A4用紙を三つ折りにし、「名前／好きなこと／自分を動物に例えるなら？」を各自記入。できるだけ初対面の人と話すように、回遊しながら、数人とコミュニケーションする時間を設けた。
4. グループワーク①
  - 高校生活について、もやもやしていること、もっとこうなったらいいな、付箋に書き、模造紙の中央部に貼る。 ●躊躇せず思ったことを直感で、どんどん書いていく。 ※各自休憩しながらワークを続ける。
5. グループワーク②
  - ・無造作に貼られた付箋たちを「カテゴリー」としてまとめ、並べ替えたりする概念化を行った。
  - ・各テーブルの大学生は、「それってどうしたら解決できそう？建物？しくみ？人間関係？」など「なぜ、そう書いたのか／そのように思うのか」という思いの根っこ部分を問い直すことで、もやもやを「課題」として明瞭に捉えられるように細やかな支援を行った。
6. グループワーク③
  - ・テーブルに一人高校生が残り、他の生徒は別のテーブルで模造紙に貼られた「課題・もやもや」に自分ならこう考える、このような解決策はどうか、など「提案・補足」などを別色の付箋に書いて貼ってゆく。客観的に概念を捉えなおすことを重視したワークを行った。
7. 全体共有・まとめ（ラップアップ）
  - ・各テーブルごとに話された内容、課題などを発表。課題解決策などの共有。九里が進行と総評を行った。
8. 今後のスケジュールなど
  - ・これからの新校WSや、高大生もやもや会（第二回）が継続的であることを周知。九里が中心となり「LINEグループ」を作成。
  - ・模造紙は「たしゅう室」利用者が見られるように壁に貼り付け。参加した高校生による丁寧なレタリング作業を施した。



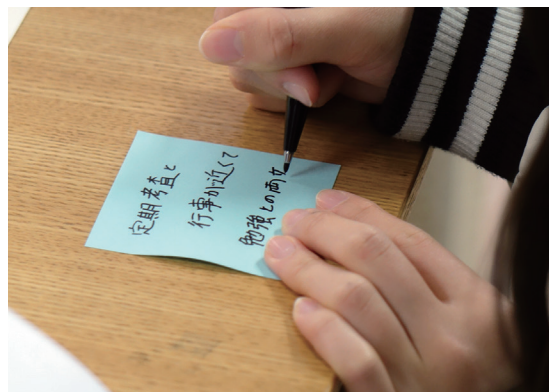
↑ かたい雰囲気にならないように、お菓子などを食べながら進行



↑ 自己紹介を兼ねたアイスブレイクで対話しやすい状況を作る



↑ 東京から駆けつけたOBも参加



↑ 「もやもや」を付箋に書いていく作業



↑ 短い時間ながらも打ち解けてゆく関係性の醸成もWSの醍醐味

## ● 高校生たちの感想

開催後、九里が SNS・LINE などに参加された生徒たちから感想をいただきました。

### 高校生の感想

●唐澤 麻夢（伊那弥生ヶ丘）／色んな視点からのもやもやがあって学校が違って共感出来ることがあって楽しかったです。解決案などを考えるうえで大学生の目のつけどころや上手な話し方にとっても刺激を受けました！ ●岸 湊子（伊那弥生ヶ丘 1年）／高校は違ってももやもやの共通点があって同じことにもやもやしてたんだ！と共感できて、盛り上がって楽しかったです。大学生の方の視点からだまた違うもやもやも発見できてさすがだなんて思いました！！

●小林 紗菜（伊那弥生ヶ丘）／普段友達とかとは新校について話すことがないので、向き合うよい機会になりました！自分の学校、他校の学校の現状に向き合いより良い学校にしたいという気持ちが皆さんから伝わってきました。もやもやを吐き出すだけでなく、その解決策をかんがえて共有する、という作業が楽しかったです！ ●宇治田 このか（伊那北）／他の人の思う新高校のイメージが知れたし、違う学年、違う高校なのに不思議な共通点があったり、今まで知らなかった他校生の学校生活が分かったり、モヤモヤを共有して解決しようとしてくれている大人な方たちが沢山いることも知れたし、ひとつの課題でも解決方法が沢山出てくるのでとても面白かったです。

### 大学生（テーブルファシリ担当）の感想

●宮澤みずき（県立大学 3年、弥生ヶ丘卒）／高校生の子ともやもやを共有してみると、自分が高校の時に感じてたのに忘れてたことが意外とあって「確かに！」をいっぱい感じた会でした～。とても楽しかったです。

●松村拓音（日本大学 3年、伊那北卒）／自分が高校生の時と変わったところや変わらないところが話していく中でわかり、共感と発見があってとても楽しかったです！個人的には「もやもや」という言葉が好きになりました。「もやもや」が分からないこと、解決したいこと、疑問を全てひっくるめて柔らかく表現してる感じがしていいなと思いました。



↑ 年齢の近い若者同士だからこそ、対話しやすい



↑ 大人からは出てこない「リアリティ」のある要望や不満に着目

## ● 総評・まとめ（ファシリテーターから）

会の中で印象的だったのは、もっとお昼ご飯を買う購買がもっと長く開いてほしいという意見に、それだったら委員会のような形で、生徒がお店を開いた方がいいかも、というアクションが出た場面です。これから新校になっていく中で、校舎や先生に期待するだけではなく、もっとみんなが出来ることは何だろう、と考えるきっかけとなりました。その、みんなのできることは何か、と考えることが自治の始まりなのではないでしょうか。また、自らで学んでいく探究の姿勢とも近いと感じ、新校を題材に学びが始まっているのだなと思います。

また、学生たちのリアルな声は、「当たり前」のように聞こえる、身近な話でした。でもそれは高校生活から離れて長い大人には、絶対に思えない、思い出すことができないお話です。生徒たちは、すぐ明日のことを考えています。この声たちの積み重ねが、学校というものを形成していくのでしょうか。拾いこぼすことのないよう、計画にいかせていけたらと思います。



この模造紙は伊那市通り町ネイバーシップ2F「たしゅうしつ」に貼ってあります。